編集後記

3月の時点で危機的だった県内のダムの貯水率は、4月、5月における例年にない降雨量と梅雨入りしてからの記録的な豪雨などもあり、水不足に関しては一安心となったようです。ここ数年の異常気象には悩ませられ続けてきましたが、今年のこの時期の記録的な大雨には沖縄は助けられたかもしれません。

さて、今月号の表紙は沖縄県立中部病院 木里先生がご投稿された、サンゴの中のかわいらしいテングカワハギが飾っています。ほのぼのとした雰囲気と清涼感が感じられます。

「第18回男女共同参画フォーラム」では、女性医師を取り巻く諸課題や女性医師の働き方についての様々な取り組みの報告がされております。高齢化社会の進行や医師の働き方改革の制度化による医師の人材不足が益々懸念される中、日本における女性医師の更なる活躍は欠かせないものであり、諸課題をできるところから少しずつでも解決していくための取り組みの継続が重要だと感じました。

生涯教育「県内における上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の現状」はとても興味ある内容でした。かつて夏の甲子園大会の沖縄県代表のエースが一人で決勝戦まで投げ続け、その後の投手としての野球人生が断たれた時の姿を思い出し、著者らが野球肘の検診のプロジェクトを立ち上げて、沖縄の野球少年の成長期野球肘発症や障害予防について積極的に取り組んでおられるお話に大変感銘を受けました。

インタビューコーナーは、沖縄県看護協会会長の平良孝美先生にお話を伺っています。

コロナ禍において沖縄県看護協会で行われてきた対応のお話に始まり、看護管理者育成の重要性、災害支援ナースの体制整備や看護師人材確保の問題、看護師の働き方や処遇改善についての課題など多岐にわたる内容となっています。コロナ禍を経験し、今後、沖縄県医師会と沖縄県看護協会との更なる連携が重要だと感じました。

「アルコール性肝硬変患者診療の実際と課題」では沖縄県内における肝硬変患者の実態やその診療における課題についてわかりやすくまとめて解説されています。

「Team F-Vision supported by OMA」も興味ある話題でした。若手医師の医師会離れや医師会に対する関心の低さは全国的にも沖縄県医師会でも大きな問題であり、このような取り組みはとても重要だと思います。今回、沖縄県では全国一若い県医師会会長が誕生しました。これを機に、このチームを中心に県内の若手医師が医師会により興味を持てるような取り組みを進めてもらい、全国のモデルケースになってもらうことを期待したいと思います。

梅雨が明け、本格的な沖縄の夏が到来しました。ここ数年、全国の夏は35℃を超える猛暑日が続いており、最高気温は沖縄が最も低いという日もしばしばみられます。「夏は涼しく、冬は暖かいリゾートアイランド沖縄」なんてキャッチフレーズもそのうち使えるようになるかもしれません。毎年の異常気象、台風やコロナの再流行も気になるところですが、何とか大禍なく、今年の夏を乗り切りたいものです。

広報委員　藏下　要